

区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	平成24年度	対前年度比	図書館運営全体				
図書館運営	基本的サービス					自己評価	外部評価			
	資料購入費:決算数値(千円)	20,074	19,400	23,196	19.6%増	全体では、貸出冊数は2.6%増にとどまった。登録者は増えたものの、新規登録者数は大幅に減少した。このことから貸出冊数を増やすためには、実効性のある方法を講じる必要がある。西蒲区の人口は少ないが、現在、登録率は21%に達している。登録率の高い都市部の区(中央区、東区、西区)と比べて低い。図書館の立地条件の良さからまだ伸びる余地があるものとする。また既に利用している登録者には、繰り返し来館して利用してもらえるような魅力ある図書館を目指したい。	1 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 66% 3 評価できない。	・新しい図書館の事業や活用方法がまだ一般に知られていないのでは。PRが必要。 ・既存の登録者が繰り返し利用したくなるような図書館となるよう取組みをお願いしたい。 ・蔵書冊数が減って残念。予算が限られているが、新書を増やすと貸出につながると思う。 ・図書館入口までのホールが暗い。 ・雑誌、一般書の充実を望む。入口正面の企画展示は、楽しみにしている。		
	蔵書冊数(冊)	202,720	270,891	270,463	0.2%減					
	貸出冊数(点)	309,188	363,271	372,673	2.6%増					
	登録者数(人)	11,301	11,947	12,864	7.7%増					
(内新規登録者数)	1,358	1,925	1,440	25.2%減						
区分	評価指標	平成22年度	平成23年度	H24目標値	理由	平成24年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業	課題解決型図書館					自己評価	外部評価			
	レファレンス件数(件)	715	927	1,320		1,008	2	レファレンス件数は、9%の増加となったが、結果的に目標値を下回った。予約件数は増加し、貸出冊数に占める予約件数の比率は、これまでの1桁から2桁の11%に達した。西川の予約件数は増加してきているので、次年度は更に増加が見込め	1 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 66% 3 評価できない。	-----
	個人予約件数(件)	28,730	36,130			41,711	4			
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	—	—			—				
	ホームページアクセス件数(件)	—	—			—				
	分権型図書館					自己評価	外部評価			
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	7,960	11,050			11,637	3	郷土・行政資料の蔵書冊数は、5%増加し、11%の貸出増となった。今後もこの分野の充実を図る。	1 大変評価する。 83% 2 ある程度評価する。 17% 3 評価できない。	・貸出増は望ましい。引き続き、郷土、行政資料の充実を望む。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	2,972	3,289			3,641	3			
	学・社・民融合型図書館					自己評価	外部評価			
	児童書の貸出冊数(冊)	87,271	102,685			102,346	2	小学生や中学生の来館が少なくなったことにもない、児童の貸出冊数は減少した。学校図書館と競合することなく、来館してもらって貸出冊数の増加に結び付く事業の抜本的な改善策を考えたい。子ども・親子対象事業の参加者は、半分以上に減少したので、新規事業の必要がある。なお派遣職員数は、全市で最も多く、全体に対して45%を占めている。	1 大変評価する。 50% 2 ある程度評価する。 50% 3 評価できない。	・少子化にともない児童数が減少しているのでは。 ・講師として職員を積極的に派遣するなど努力が伝わってくる。 ・小学校・中学校と連携した新規事業等未読者を減らす施策を期待する。 ・学校図書館とは違う魅力をつくりだすことが必要。
	小中学生への貸出冊数(冊)	31,784	36,217			35,647	2			
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	1,766	2,208			948	1			
	職場体験受入人数(人)	36	30			32	3			
	講師等としての派遣職員数(人)	132	122			155	4			
	パートナーシップ型図書館					自己評価	外部評価			
	図書館事業のボランティア活動者数(人)	1,008	1,098	1,580		879	1	配架・書架整理ボランティアの活動者数が減少したので、再募集を考える。読み聞かせボランティアの交流会は、次回テーマを絞って、話し合いが深まるよう企画する。利用者懇談会は、多くの方に集まっていたが、人を呼べるテーマの設定がむずかしく、現在どこも実施していない。共催事業数は、減少したものの、なお中央図書館に次いで多い。	1 大変評価する。 33% 2 ある程度評価する。 50% 3 評価できない。 17%	・配架・書架整理ボランティアの活動者数が減少したが、活動が魅力的になるような工夫が必要。 ・利用者懇談会の実施を期待する。
ボランティア団体交流会参加者数(人)	4	10			9	2				
利用者懇談会の開催回数(回)	1	2			0	1				
共催事業の実施回数(回)	15	27			21	1				
運営(職員)					自己評価	外部評価				
研修参加職員数(人)	100	208	160		100	4	効果が乏しいと考えられる研修を大幅に削減した。それでも1人当たりの年間回数は約4.5回で、新人が多い中央図書館所管の地区図書館と同じとなっている。研修は組織の職員の熟練度に応じて適切な回数を実施する。	1 大変評価する。 50% 2 ある程度評価する。 50% 3 評価できない。	・受講したいテーマを上申するとかして研修をうまく活用することを望む。 ・どのような研修を受けて、どのように活かされているのか。	

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針、組織目標:新潟市が実施している組織ごとの行政評価